

【授業者からの補足】

・生徒たちが自分たちで SDGs に関する自分の意見を発表する内容だったが、想像以上に生徒たちが活発に授業発表や意見発表を行ったために、時間がオーバーしてしまった。最後に行うはずだった意見共有までの時間を確保することができなかつたため、できなかつた部分は次回の授業で補填する。パワーポイントの使用は教員側からの指導ではなく生徒が主体的に使用した。

【ブレイクアウトルームでの意見】

・テーマが SDGs で社会問題に関するものであったため、生徒にとっては難しいテーマも多かったと思うが、生徒たちが積極的に発言をしており、クイズを作って質問しあうなどの工夫をしながら、和やかな雰囲気の中で行われていることに感心した。

・学年でパフォーマンステストを統一しているのかどうか、またこのプレゼンテーション発表までの年間計画について知りたい。更にこのプレゼンテーションまでにどのように指導を積み上げてきたのかを知りたい。

【全体協議（一部）】

・生徒の発表の内容が、大きな課題から始まり最後の部分では自分のことに近づけて考えられており良い構成でプレゼンテーションを行うことができていた。

・英語でのプレゼンテーション練習は経験しておくべきものなので、1年生の時点でできたのはよい。プレゼンで使用する英単語は、学ぶべき重要な単語が多く、授業の内容としても充実していた。特に SDGs は話題として知っておくべきテーマであるのでテーマとしても素晴らしかった。

・事前にルーブリックを作っておく必要があるのではないかと。生徒の相互評価やコメント、内容のサマライズなどを通して生徒が意見共有をする時間がもっと必要であると感じた。

・生徒たちが、自分たちがどのようにすればわかりやすいか、どのような内容にすればわかりやすいかを主体的に工夫していたことに感心した。

【助言】

・授業者の先生の明るい雰囲気に影響を受けて生徒も元気で楽しい雰囲気のなかで授業を行っていた。研究授業では50分の間で与えられたテーマを完結しなくてはならないため、何回研究授業を経験しても満足できることは少ないと感じている。

・全体の前ではなく、それぞれのグループの中で発表し合う授業形態は生徒にとっては発言しやすくよいものだと感じたが、教師が生徒一人一人の評価をどのようにするのかにおいての工夫が求められる。ビデオ撮影などを通して、fluency（流暢さ）だけでなく accuracy（正確さ）もバランスをとりながら指導や評価、フィードバックをすることで生徒の力が伸びるのではないかと。

・プレゼンの技術の指導は日本語でもできる。英語を使って上手にプレゼンをするために求められるのはやはり英語力、日頃からの積み重ねである。日頃学んだ内容を効果的にアウトプットするためには、簡単な内容からの自己表現やディベート、プレゼンを通して少しずつステップアップしていく事が求められる。